

公益財団法人 サントリー芸術財団 音楽事業部

107-6019 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階 私書箱509号 Tel: 03-3582-1355 Fax: 03-3582-1350

Nosfa0059 (2024.3.27)

第55回（2023年度）サントリー音楽賞は 近藤 譲 氏に決定



©Jörgen Axelvall

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤 剛、鳥井信吾）は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第55回（2023年度）受賞者を近藤 譲（こんどう じょう）氏に決定しました。贈賞式は2024年5月13日（月）に執り行います。

●選考経過

2024年1月8日（月・祝）国際文化会館において第一次選考を行い、候補者を選定した。引き続き2月29日（木）国際文化会館において最終選考会を開催。慎重な審議の結果、第55回（2023年度）サントリー音楽賞受賞者に近藤 譲氏が選定され、3月25日（月）の理事会において正式に決定された。

●賞金 700万円

●選考委員は下記の7氏

伊東信宏、片山杜秀、白石美雪、長木誠司、沼野雄司、船木篤也、松平あかね
（敬称略・50音順）

<贈賞理由>

近藤譲はちょうど半世紀前の「線の音楽」シリーズ以来、その創作、著作を通じて日本の聴衆、音楽家を深いレベルで啓発し続けてきた。近藤の作品は、声高に激情を叫ぶようなものとは異なり、いつも静かに、しかしくっきりとした輪郭を示すもので、その影響は年月を超えて、今一層光を放つようになっている。

2023年度の「コンポージアム」(5月23-28日、東京オペラシティ)は、近藤の人と作品に焦点をあてたもので、ドキュメンタリー映画の上映とトーク、世界初演2曲を含む管弦楽の演奏会(そこには70年代の作品から最新作までが並んだ)、そして武満徹作曲賞の審査、さらには同時期に開催された作曲のマスタークラスや関連公演も含めてこの作曲家の現在を一望できる機会となった。

一つの音を置き、それを繰り返し聴くことによって次の音を見出し、さらにそれらの音を繰り返し聴くことによって第三の音を置く、といった近藤が繰り返し述べてきた作曲法は、かつて様々な作曲技法がもてはやされた時代には素朴すぎるように見えたし、その作品自体はかえって謎めいて聞こえたのだが、パンデミックや戦争によって人間(と人間集団)の孤立が深まり、さらにAIによる芸術の侵食が現実のものとなった今、近藤の音楽と言葉は、我々に深い覚醒が必要なことを告げているように思われる。

CD『近藤譲室内楽作品選集「昼と夜」』も含めて、前述のコンポージアムの諸成果を考えると、今年はこの世界的に見ても稀有な、知的で誠実な活動を続けてきた作曲家を顕彰する絶好のチャンスである。ここにサントリー音楽賞を贈るものである。

(伊東信宏委員)

<略 歴>

近藤 譲（こんどう じょう） 作曲

1947年10月28日東京生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。1977～78年ロックフェラー3世財団フェローとしてニューヨークに滞在。1979年カナダ・カウンシルの招きでブリティッシュ・コロンビア州ヴィクトリア大学において客員講師を務める。1986年ブリティッシュ・カウンシル・シニア・フェローとしてロンドンに滞在。1987年米国ハートフォードのハート音楽大学コンポーザー・イン・レジデンス。同年及び2000年英国ダーティントン国際サマースクールで講師を、2015年米国ロチェスター大学イーストマン音楽院において特別客員教授を務めた。これまでに、ハーヴァード大学、ニューイングランド音楽院、エディンバラ大学、ヨーク大学、ケルン大学、ハンブルク音楽大学、アムステルダム音楽院等、欧米の多くの大学で自作についての講演を行っている。国内においては、エリザベト音楽大学教授、お茶の水女子大学・大学院教授として、また、東京藝術大学でも長年教鞭をとり、現在、昭和音楽大学教授、お茶の水女子大学名誉教授。

1980年には現代音楽アンサンブル「ムジカ・プラクティカ」を結成し活動、1991年の解散まで音楽監督を務めた。

国内外の優れた演奏家や演奏団体、音楽機関から委嘱を受け、独奏曲から室内楽、管弦楽、声楽曲、オペラ、そして電子音楽作品まで、広範にわたる作品を発表。180曲近くにのぼる作品のほとんどが英国のヨーク大学出版（UYMP）から、そして一部がニューヨークのピータース社から出版されている。また、多くの作品の録音が、ALM、フォンテック、ドイツ・グラモフォン、HatHut（スイス）、Wergo（ドイツ）等のレーベルからリリースされている。

ロンドン・シンフォニエッタ（英国）、バーミンガム・コンテンポラリー・ミュージック・グループ（英国）、アイブズ・アンサンブル（オランダ）、ニュー・アンサンブル（オランダ）、アンサンブル・ルシェルシュ（ドイツ）、アンサンブル・ラル・プール・ラル（ドイツ）、ボツィーニ弦楽四重奏団（カナダ）、アンサンブル・ノマド（日本）、オリヴァー・ナッセン、ポール・ズコフスキー、井上郷子など優れた演奏家たちが、近藤作品を好んで繰り返し演奏している他、「パリの秋（フランス）」「アルメイダ国際音楽祭（英国）」「フィレンツェの5月（イタリア）」「ハダースフィールド国際音楽祭（英国）」「タングルウッド音楽祭（米国）」を始めとして多くの国際音楽祭において特集が組まれている。

2023年2月には、ロンドンのRoyal College of Musicが近藤譲の75歳を祝うコンサートを開催した。

国内でも、サントリー音楽財団（現・サントリー芸術財団）主催によるオーケストラ作品個展（2004年）、近藤の70歳を祝う有志による室内楽作品個展「近藤譲七十歳の径路」（2017年）、東京オペラシティ文化財団主催「コンポージアム」のオーケストラ作品個展「近藤譲の音楽」（2023年）、同音楽祭の関連公演の室内楽作品個展、合唱作品個展などが開催されている。

毎年5日連続で放送されているNHK・FMラジオ番組「ベスト・オブ・クラシック～コンテンポラリーを聴く」では、長年、選曲とパーソナリティーを担当している。

作曲と美学に関する執筆活動も活発に行っており、『線の音楽』『音楽の種子』『耳の思考』『〈音楽〉という謎』『音を投げる－作曲思想の射程』『聴く人』などがあり、『ものがたり西洋音楽史』では毎日出版文化賞特別賞（2020年）を受賞。翻訳においても、J.ケージ著『音楽の零度』、D.ヒューズ著『ヨーロッパ音楽の歴史』（共訳）、M.E.ボンズ著『「聴くこと」の革命－ベートーヴェン時代の耳は「交響曲」をどう聴いたか』（共訳）等の著作がある。

これまでに、日本音楽コンクール作曲部門、ガウデアムス国際作曲コンクール（オランダ）、国際現代音楽協会国際音楽祭（香港）、芥川作曲賞（現・芥川也寸志サントリー作曲賞）、ハダースフィールド国際作曲コンクール（英国）、ソウル国際作曲コンクール（韓国）、日本現代音楽協会作曲新人賞、武満徹作曲賞（2023年）等の作曲コンクールの審査員、柴田南雄音楽評論賞審査委員、京都賞音楽部門選考委員なども務めている。現在、日本現代音楽協会理事長。

1991年尾高賞（オーケストラ作品「林にて」）、2005年中島健蔵音楽賞、2018年3月平成29年度（第68回）芸術選奨文部科学大臣賞（音楽部門）を受賞。2012年にはアメリカ芸術・文学アカデミー（American Academy of Arts and Letters）外国人名誉会員（終身）に選出された。

出版 UYMP（University of York Music Press） www.uymp.co.uk
Edition Peters www.edition-peters.com
音楽之友社 www.ongakunotomo.co.jp
公式サイト <https://jokondo.b-sheet.jp/>

〔ニュースリリースに関するお問い合わせ・広報用画像お申し込み〕

公益財団法人サントリー芸術財団 音楽事業部

ongakujigyo@suntory.co.jp

TEL：03-3582-1355（平日10：00～17：00）

FAX：03-3582-1350

以 上

(ご参考)

サントリー音楽賞および受賞記念コンサートについて

公益財団法人サントリー芸術財団では、1969年(昭和44年)の鳥井音楽財団設立以来、わが国における洋楽の振興を目的として、毎年、その前年度においてわが国の洋楽文化の発展にもっとも顕著な功績のあった個人または団体を顕彰し、「サントリー音楽賞」(旧名・鳥井音楽賞)を贈呈しています。賞金は700万円です。

また、サントリー音楽賞受賞者・受賞団体の業績を改めて紹介するため、記念の演奏会を開催しています。

これまでに「サントリー音楽賞」を受賞した方々は下記の通りです。

第1回	1969年度	小林 道夫 (ピアノ・チェンバロ・指揮)
第2回	1970年度	堤 剛 (チェロ)
第3回	1971年度	三谷 礼二 (オペラ演出)
第4回	1972年度	小川 昂 (理論・評論)
第5回	1973年度	ICUオルガン委員会 (国際基督教大学)
第6回	1974年度	秋山 和慶 (指揮)
第7回	1975年度	栗林 義信 (声楽) 山根 銀二 (評論)
第8回	1976年度	芥川 也寸志と新交響楽団
第9回	1977年度	常森 寿子 (声楽)
第10回	1978年度	松村 禎三 (作曲)
第11回	1979年度	吉原 すみれ (打楽器)
第12回	1980年度	妹尾 河童 (舞台美術)
	特別賞	江戸 英雄 (第1回日本国際音楽コンクール会長)
第13回	1981年度	柴田 南雄 (作曲)
第14回	1982年度	外山 雄三 (指揮)
	特別賞	原 清 (ザ・シンフォニーホール建設グループ代表)
第15回	1983年度	鈴木 敬介 (オペラ演出)
第16回	1984年度	豊田喜代美 (声楽)
第17回	1985年度	日本テレマン協会 (室内管弦楽団・合唱団)
第18回	1986年度	内田 光子 (ピアノ) 若杉 弘 (指揮)
第19回	1987年度	岩城 宏之 (指揮)
第20回	1988年度	林 康子 (声楽)

第21回	1989年度	有田 正広 (古楽演奏)
第22回	1990年度	武満 徹 (作曲)
第23回	1991年度	尾高 忠明 (指揮)
第24回	1992年度	練木 繁夫 (ピアノ)
第25回	1993年度	五嶋みどり (ヴァイオリン)
	特別賞	ウォルフガング・サヴァリッシュ (指揮)
第26回	1994年度	和波 孝禧 (ヴァイオリン)
第27回	1995年度	今井 信子 (ヴァイオラ)
第28回	1996年度	園田 高弘 (ピアノ)
		湯浅 譲二 (作曲)
第29回	1997年度	東京交響楽団
第30回	1998年度	林 光 (作曲)
第31回	1999年度	三善 晃 (作曲)
第32回	2000年度	飯守泰次郎 (指揮)
第33回	2001年度	一柳 慧 (作曲)
第34回	2002年度	小澤 征爾 (指揮)
		木村かをり (ピアノ)
第35回	2003年度	野平 一郎 (作曲、ピアノ)
第36回	2004年度	西村 朗 (作曲)
第37回	2005年度	鈴木 秀美 (チェロ・指揮)
第38回	2006年度	東京混声合唱団
第39回	2007年度	細川 俊夫 (作曲)
第40回	2008年度	小山 由美 (声楽)
第41回	2009年度	大野 和士 (指揮)
第42回	2010年度	渡邊 順生 (チェンバロ)
第43回	2011年度	該当者なし
第44回	2012年度	藤村 実穂子 (声楽)
第45回	2013年度	鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパン
第46回	2014年度	広上淳一と京都市交響楽団
第47回	2015年度	トッパンホール
第48回	2016年度	小菅 優 (ピアノ)
第49回	2017年度	読売日本交響楽団
第50回	2018年度	高関 健 (指揮)
第51回	2019年度	河村 尚子 (ピアノ)
第52回	2020年度	三輪 眞弘 (作曲)
第53回	2021年度	濱田 芳通 (指揮・リコーダー・ホルネット)
第54回	2022年度	井上 道義 (指揮)

特別贈賞 1979年6月 巖本真理弦楽四重奏団
〃 1997年8月 黛 敏郎（作曲）

▽第53回サントリー音楽賞受賞記念コンサート 濱田芳通（指揮・リコーダー）

日時：2024年8月17日（土）16：00開演

会場：サントリーホール 大ホール

曲目：ヘンデル：オペラ『リナルド』 HWV 7a

[全3幕／イタリア語上演・日本語字幕付]

キャスト・スタッフ

指揮・リコーダー：濱田芳通

リナルド：彌勒忠史（カウンターテナー）

アルミレーナ：中川詩歩（ソプラノ）

ゴツフレード：中嶋俊晴（カウンターテナー）

アルミーダ：中山美紀（ソプラノ）

エウスタツィオ：新田壮人（カウンターテナー）

アルガンテ：黒田祐貴（バリトン）

魔法使い／ドンナ：眞弓創一（カウンターテナー）

伝令／セイレーン1：中嶋克彦（テノール）

セイレーン2：山際きみ佳（メゾ・ソプラノ）

舞踊：西川一右

管弦楽：アントネッロ

演出：中村敬一

▽第54回サントリー音楽賞受賞記念コンサート 井上道義（指揮）

日時：2024年12月30日（月）開演時間未定

会場：サントリーホール 大ホール

曲目：ベートーヴェン：交響曲第6番 へ長調 作品68「田園」

ベートーヴェン：交響曲第5番 ハ短調 作品67「運命」

ショスタコーヴィチ：祝典序曲 作品96

出演：指揮＝井上道義

管弦楽＝読売日本交響楽団

以 上